

産総研と香港科技大学、ナノテクのジョイントワークショップを香港で開催

2005年3月3～4日、産総研と香港科技大学（Hong Kong University of Science and Technology, HKUST）の共催で、ジョイントワークショップHKUST-AIST Joint Workshop on Nano Science

and Technologyが、香港科技大学にて開催されました。産総研は国際連携を重視し、特にナノテク分野においてはAsia Nano Forum (ANF)を主宰し、アジア太平洋地域との連携を深めていま

す。一方、香港科技大学は、香港特別行政区政府のイノベーション基金と香港産業界の支援で設立されたナノテクR&Dセンターを擁し、香港におけるナノテク研究開発・産業化の中心であるのはもちろん、世界の工場たる中国本土との接点としての役割も担っています。本ワークショップでは、Paul Chu学長ら100名以上の参加（産総研から13名）を得て、特に産業化に近いテーマが両者から発表され、人材交流や共同研究プロジェクトなどについて活発な意見交換が行われました。



タイ・日本 研究協力フォローアップ会議を開催

産総研は昨年11月、タイの国立研究機関、国家科学技術開発庁（NSTDA）およびタイ科学技術研究院（TISTR）との包括的研究協力協定を締結、ジョイントワークショップ（バンコクにて）においては、多くの具体的協力案件が提案されました。そのときの申し合わせに基づき、そのフォローアップ会議を、2005年3月22～23日に産総研つくばセンターで開催しました。会議では、日本（産総研の他、農水系機関や企業、大学、団体など）、タイ（NSTDA、TISTR）双

方から各20数名が出席し、バイオマスなどエネルギー・環境、ナノテク、バイオセンサー、ITの各分野において、昨年11月のワークショップで提案された連携強化課題の戦略面での絞り込み、今後の展開に関わる総合的な意見交換、必要な調整などについて、活発な議論が行われました。また、タイ代表団のうち研究者10数名は、本会議を含め最大2週間程度、産総研のホスト研究者のもとに滞在し、協力案件のさらに細かな検討を行いました。



写真 会議に出席した NSTDA・Sakarindr 長官（写真右）と産総研・小玉副理事長

臨海副都心センター バイオ・IT 融合研究棟 開所式開催



臨海副都心センター別館「バイオ・IT 融合研究棟」が、2005年1月末に竣工し、2005年3月30日に開所式が挙行されました。式典では、吉川理事長の挨拶に続いて、ご来賓の斎藤経済産業省産業技術環境局長、毛利日本科学未来館長に

よるご祝辞を頂きました。続いて、吉海企画本部長、秋山生命情報科学センター長、渡辺生物情報科学研究センター長等による講演があり、その後、施設見学、交換会が行われました。

バイオ・IT融合研究棟建設の目的は、バイオ技術と情報技術とを融合したバイオインフォマティクス技術を中心とする研究開発を行うことによって、新規産業の創出や市場拡大を図ることにより、高度な研究環境を提供することで、産学官連携研究を強力に推進し、同分野の基礎から応用に至る本格研究の新たな研究拠

点とすることを目指しています。本開所式は、産総研外部の産学官機関から約100名のご参加を頂き、総勢約150名という盛会裏に終了しました。



柘植総合科学技術会議議員がつくばセンターを視察

3月24日、柘植総合科学技術会議議員が、つくばセンターを来訪されました。

半導体MIRAIプロジェクトについて、廣瀬 次世代半導体研究センター長が概要を説明いたしました。議員は我が国の半導体研究開発について技術内容や展望などを熱心にご質問されまし

た。その後、グリッドコンピュータについて関口グリッド研究センター長が概要説明をいたしました。さらに知能システム研究部門では、RTミドルウェア、ヒューマノイドロボットについて、また、エレクトロニクス研究部門ではMRAM（スピントロニクス）について

それぞれの研究者から説明を聞かれました。

いずれの研究内容についても、産総研が行っている研究の現状や今後の展望について、研究者と大変有意義な意見交換をされました。

平成17年度役員人事異動のお知らせ

なかしま なおまさ

中島 尚正 (理事)

昭和16年3月9日生 (64才)
東京大学大学院工学系研究科博士課程 修了
工学博士

略 歴:

昭和44年 東京大学工学部講師
58年 同 東京大学工学部教授
平成10年 同 工学部長
13年 放送大学教授、東京多摩学習センター所長
16年 同 副学長 (現在に至る)
平成17年 独立行政法人 産業技術総合研究所非常勤理事 (現在に至る)



わたなべ ひろゆき

渡邊 浩之 (理事)

昭和18年3月4日生 (62才)
九州大学大学院工学研究科修士課程 修了
工学博士

略 歴:

昭和42年 トヨタ自動車工業株式会社 入社
平成 8年 トヨタ自動車株式会社取締役就任
11年 同社 常務取締役就任
13年 同社 専務取締役就任 (現在に至る)
15年 同社 情報事業本部 本部長 (現在に至る)
15年 同社 品質保証本部 本部長 (現在に至る)
平成17年 独立行政法人 産業技術総合研究所非常勤理事 (現在に至る)



すずき やすお

鈴木 安雄 (監事)

昭和19年11月3日生 (60才)
北海学園大学法学部法律学科 卒業

略 歴:

昭和38年 工業技術院 資源技術試験所 入所
平成 7年 大阪工業技術研究所 総務部長
9年 生命工学工業技術研究所 総務部長
11年 地質調査所 総務部長
12年 工業技術院 総務部 筑波研究支援総合事務所 長
13年 財団法人機械振興協会 理事
平成17年 独立行政法人 産業技術総合研究所 監事 (現在に至る)



あめみや はじめ

雨宮 肇 (監事)

昭和18年1月26日生 (62才)
慶応義塾大学工学部応用化学科 卒業

略 歴:

昭和40年 旭硝子 (株) 入社
平成 7年 同社 硝子・建材事業本部長補佐
8年 同社 取締役 事業部長
9年 同社 常務取締役技術本部長、CTO
12年 同社 専務取締役技術本部長、CTO
14年 同社 代表取締役副社長執行役員 技術本部長・CTO
17年 同社 代表取締役副社長執行役員
CTO・板ガラスカンパニープレジデント (現在に至る)
平成17年 独立行政法人 産業技術総合研究所 非常勤監事 (現在に至る)



EVENT Calendar

4月10日現在
http://www.aist.go.jp/aist_j/event/event_main.html

2005年5月 → 2005年7月

●は、産総研内の事務局です。

期間	件名	開催地	問い合わせ先
5 May			
11~14日	The 10th International Conference on New Diamond Science and Technology	つくば	03-3508-1213
18~20日	NMIJ-BIPM Workshop	つくば	029-861-4120●
18~20日	第4回 国際バイオEXPO	東京	03-5288-6868●
20~22日	光触媒環境産業展 フォトクリンフェア	名古屋	052-733-8030
23~24日	第11回化学とマイクロ・ナノシステム研究会	福岡	0942-81-3676●
24日	The Third International Workshop for Advanced Ceramics	名古屋	052-736-7096●
6 June			
10日	先進センサ技術国際シンポジウム	東京	052-736-7241●
19~22日	BIO 2005 ANNUAL INTERNATIONAL CONVENTION	米国	03-5288-6868●
7 July			
31~8/5日	第11回極低温検出器国際会議	東京	029-861-5685●

もっと身近にロボットテクノロジーを。
昨年から販売が開始された癒し系アザラシ型ロボットの国際版が、
愛・地球博で国内外からの来場者をお待ちします。

このアザラシ型ロボットは「パロ」と名付けられています。パロは、1998年に誕生しました。パロの生みの親は産総研のロボット研究者、柴田氏です。

柴田氏は、それまでのロボットのイメージを覆した「いやし系」のロボットとして、パロを生み出し、メンタルコミットロボットという新ジャンルを開拓しました。



柴田氏にとって、パロとは？

私が、このタイプのロボットの研究を開始したのは、1993年のことです。パロは、多くの人々や機関の協力を得て初めて生まれたロボットです。人と相互作用するロボットの研究として、動物型を選択し、人の生理・心理に関わる研究を開始しました。1995年から二年間、米国マサチューセッツ工科大学人工知能研究所で研究員を兼任し、心理実験を行ったり、手作りで犬型ロボットを作ったりしながら、基礎的な技術の研究開発を進めました。

1998年に初代が誕生したパロは、ロボット・セラピーを目的に、家庭や医療・福祉施設などでより多くの人々に愛されるように、セラピー効果の科学的な検証を行いつつ、絶えず進化を重ね、現在は8代目になっています。

2002年に、パロは「世界一のセラピー効果を持つロボット」としてギネス世界記録に認定されました。

長い研究開発の道を経て、昨年いよいよ本格的に商品化されたパロは、各地の医療・福祉施設や一般家庭などで多くの方々にかわいがられています。また、スウェーデン、イタリア、フランス、アメリカで、パロによるロボット・セラピーの実験が行われ、大変高い評価を得ています。

柴田氏は、パロやロボット・セラピーの研究開発などの活動が認められ、2003年に（社）日本青年会議所主催、人間力大賞でグランプリや内閣総理大臣奨励賞を受賞し、2004年には日本代表として国際青年会議所から「The Outstanding Young Person of the World」を受賞しています。

3月から開催されている、愛・地球博では、7カ国語を認識できる国際版のパロが、ロボットステーションや長久手日本館などで、会場を訪れる方々に心のうおいをもたらす役目を果たし、ロボットへの国際的な関心の向上に役立っています。

今後も、パロのセラピー効果を一層高めるため、人とパロの共存について研究し、改良を重ねていきます。

パロについては、<http://paro.jp> をご覧ください。



[愛・地球博のスペシャルパロ]

これまで、長い年月をかけて研究開発され、今皆さんにかわいがられているパロは、タテゴトアザラシの赤ちゃんをモデルにした真っ白なアザラシです。

もちろん、この“普通の”パロもとってもかわいいのですが、愛・地球博の会場では、特別に、五色のパロが皆さんをお待ちしています。純白に加えて、金色・薄桃色・若草色・薄紫色のパロにぜひ会いに来てください。



産総研は、愛・地球博にさまざまな技術を提供しています
http://www.aist.go.jp/aist_j/pr/expo/

産総研
TODAY

2005 May Vol.5 No.5

(通巻52号)
平成17年5月1日発行



独立行政法人
産業技術総合研究所

編集・発行
問い合わせ

独立行政法人産業技術総合研究所
広報部出版室

〒305-8568 つくば市梅園1-1-1 中央第2

Tel : 029-862-6217 Fax : 029-862-6212

E-mail : prpub@m.aist.go.jp

ホームページ

<http://www.aist.go.jp/>

● 本誌掲載記事の無断転載を禁じます。● 所外からの寄稿や発言内容は、必ずしも当所の見解を表明しているわけではありません。



100%再生紙を使用しています。

